

大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（案）に対するご意見について

説明会やホームページを通じて皆様からいただいたご意見（総数：164）を要約し計画（案）の項目ごとに整理してコメントを付けさせていただきました。

なお、多くのご意見が長文におよんだため要約し整理させていただいたことについてご了承下さい。

○計画策定の目的及び背景

意見	コメント
①様々な要因があるのになぜシカだけがターゲットになるのか? (同様意見多數)	大台ヶ原の植生衰退にはいくつかの要因があり、シカはその1つであると認識しています。 年々植生の衰退が進行している現状を踏まえ、現在対策を講じることが可能で、かつその効果が望めるシカを対象に、影響軽減対策や生息環境整備等について検討を進め、大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画を策定し、順次実施することにしました。 その他の要因についても今後順次調査・検討を進めていく考えです。
②ドライブウェイ開通後のオーバーユースや排気ガスこそが植生衰退の原因であって、入山制限等の対策をまず行うべきである。 (同様意見多數)	入山制限やマイカー規制については来年度より利用対策部会を設け、検討を進める予定です。
③植生の衰退もシカの増加も自然の流れであり原生的自然を有し、国費で買い上げを行い、特別保護地区に指定されている大台ヶ原に人の手を加えるべきではない。 (同様意見多數)	大台ヶ原の植生衰退やシカの増加には人為が大きく関与していると考えており、単純な自然の流れではないと思われます。 また、大台ヶ原の原生的自然を守るための慎重な検討の結果、人為の介入による最小限の管理もやむを得ないと考えています。
④第9次鳥獣保護事業計画に基づく特定鳥獣保護管理計画との関係が不明確。特定鳥獣保護管理計画は県が作るものである。	特定鳥獣保護管理計画は鳥獣保護事業計画に基づき、鳥獣の個体群の保護管理のために各都道府県の知事が策定することになっていますが、本計画の対象地域の大部分は、国立公園の核心地域としての環境省所管地かつ国設鳥獣保護区であるため、その管理は国が行うことになっています。 本計画の策定にあたっては県の計画と齟齬が生じないよう調整を進めています。

○保護管理計画の目標

意見	コメント
①植生衰退の要因の中に酸性雨や地球温暖化を入れるべきである。 (同様意見多數)	酸性雨や地球温暖化も大台ヶ原の植生衰退の様々な要因の一つである可能性はあると思われますが、現在のところ明確な因果関係をしめす研究結果等は報告されていません。
②シカの食性のデータから樹皮は数%しか食べていないので、剥皮が主な原因ではない。 ③シカと植生の衰退の関係が科学的データで証明されていない。 (同様意見多數)	植生調査地点のうち枯死率が20%以上の地点についてみると枯死木のうち剥皮されたものが平均81%，されていないものが19%となり、シカによる剥皮が植生衰退の大きな要因の一つであると考えられます。
④シカが剥皮をするのは、観光客等によるストレスからではないのか。	自然林への重度の剥皮は、大台ヶ原の他北海道、栃木県、鹿児島県等から報告されていますが、入り込み者の多い場所に限定されているわけではありません。
⑤シカの生息数の推定が曖昧である。 (同様意見多數)	本計画に関する調査には野生動物の密度調査に用いられる調査法の中で現時点でも最も信頼度が高く実施可能な区画法と糞粒法を用いました。また、この方法はシカの密度推定に全国的に用いられているものです。
⑥トウヒの立ち枯れは日出ヶ岳山頂付近に集中しているのにシカの行動圏はそこに一致していない。よって、シカが要因ではない。	日出ヶ岳山頂付近の立ち枯れについても、台風、人の入り込み、シカによる剥皮などが原因と考えられています。 調査の結果得られたシカの行動圏には、日出ヶ岳山頂付近も含まれています。また、日出ヶ岳山頂付近を含む特別保護地区東部は他と比べてシカの密度が高く、樹木の剥皮や枯死が多く発生しています。

○影響軽減対策

意見	コメント
①防鹿柵に地元産の間伐材を使って欲しい	大台ヶ原は積雪が多く、急傾斜地が多いこと等から強度、耐久性の点で木材の使用は困難と考えていますが、今後木材の使用が可能な場所や方法を検討します。
②これまで行ってきた植生保全対策事業の効果について再評価し、事業を見直すべきだ。	これまでの事業の効果に対する再評価については必要と考えており、今後の課題です。

<p>③シカを殺すことは動物愛護に反するのではないか？（同様意見多数）</p>	<p>本計画の最終目的は大台ヶ原の森林生態系の回復であり、このことによりバランスのとれた形でシカを含む生物の多様性が保全されると考えています。現在のシカの生息密度は全国の自然林と比較しても極端に高く、バランスを欠いています。このため、防鹿柵や金網の巻き付け（ラス巻き）により植生保全対策を実施しますが、緊急性を考慮し、やむを得ず個体数調整も同時に実施するものです。</p>
<p>④去勢する方法は採れないのか？</p>	<p>オスは複数のメスと生殖するため全数去勢しない限りは、生息密度の低減は望めません。 また、野生生物を去勢することは個体群の健全性を低下させるとと言われています。</p>
<p>⑤他の国立公園や動物園で引き取ってもらえないのか？ (同様意見多数)</p>	<p>他の国立公園への移入は、その生態系攪乱を招きます。また、各動物園等とも収容状況はほぼ一杯です。</p>
<p>⑥調査法の誤差によって推定生息数が変わるとと思われ、シカが絶滅する恐れがある。 (同様意見多数)</p>	<p>一般に自然林でシカによる剥皮が少なく森林更新が可能な生息密度は3～5頭/km²とされていますが（奈良県ニホンジカ保護管理計画では5頭/km²），本計画では、防鹿柵や金網巻き付けにより対策を実施するためその2倍の密度を見込み10頭/km²としました。なお、目標密度と捕獲頭数はモニタリング調査により毎年見直しを行います。</p>
<p>⑦10頭/km²にする根拠は何か。大台ヶ原における適正密度はどの位なのか？</p>	<p>また、大台ヶ原のシカは紀伊半島の個体群の一部で連続分布しています。 したがって、本計画の実施により計画区域内での絶滅の心配は無いと考えています。</p>
<p>⑧鳥獣保護乃狩猟ニ関スル法律を改正する際に出された付帯提言の中に「過剰な捕獲をもたらすことがないように定められるべきである」とあるが、この計画では生息頭数より多い頭数を捕獲するので絶滅の恐れがある。</p>	<p>重大な影響を受けている地域で、防鹿柵や金網巻き付けと共に、緊急的な手段として個体数調整を実施することは必要であると考えています。 なお、モニタリングにより周辺地域のシカの生息状況も把握し計画に反映します。</p>
<p>⑨狭い地域での個体数調整は保護管理とは呼べないのでないか。</p>	<p>奈良県では農林業被害の軽減とシカ個体群の保護管理のため、県内全域を対象としたニホンジカ特定鳥獣保護管理計画を策定していますが、大台ヶ原は農林業被害ではなく自然植生の衰退という特定の問題が起きている地域であるため、厳密な計画を立てる必要があると考えています。 なお、県の特定鳥獣保護管理計画との関係については計画策定の目的及び背景の④のとおりです。</p>

⑩ニホンオオカミを絶滅させた人間にはそれに代わる行為をする義務がある。	大台ヶ原においてもオオヤマレンゲをはじめ多くの動植物の衰退・減少による生物多様性の減少が知られています。生態系のバランスが崩れた大台ヶ原では、元に戻すべく人為介入もやむを得ないと考えます。
⑪動植物の調和のとれた生育のために人為の介入もやむを得ない。	
⑫大峰山でのオオヤマレンゲの衰退を見るとシカによる植生への影響の重大さが理解できる。	
⑬捕獲後の処理はどうなるのか？（同様意見多数）	捕獲個体は、外部計測おこなった後、歯、胃内容、大腿骨、腎臓、組織などを採集し、シカ生息動態に関する分析を行い今後の保護管理に役立てます。
⑭シカの増加率に対して捕獲数が少ないのでは？短期間に多数の捕獲をしてはどうか。	短期間に一定の場所での大量捕獲は、大台ヶ原のシカに与える影響が大きいと考えられ、モニタリング調査の結果により隨時決定することを考えます。
⑮もっと早く個体数調整を行うべきだった。	個体数調整に関しては、その手法、実施による影響、モニタリングの体制、合意形成等についてこれまで慎重な検討を続けてまいりました。
⑯大台ヶ原で個体数調整を実施しなくても、周辺で捕獲すればいいのでは？	大台ヶ原周辺ではすでに多数のシカを捕獲していますが、大台ヶ原の生息密度は下がっていません。また、人工林よりも大台ヶ原の方がエサ条件が良いこと等から、周辺部の捕獲で大台ヶ原で植生への影響が少なくなるまで密度を下げるためには、本計画よりも遙かに多く捕獲を要してしまうことが予想されます。植生への影響が大きく緊急に対策をとることが必要な緊急対策地区での個体数調整が必要と考えます。
⑰大台ヶ原全域を防鹿柵で囲えば個体数調整は必要ないのではないか。	沢等の地形の問題や動物の移動経路確保の観点から全域を一周で囲うのではなく、いくつかの区域ごとに囲う方針としています。また、大台ヶ原の気象や地形により1年間で設置できる防鹿柵には限界があるため、緊急的措置としての個体数調整が必要と考えています。

○モニタリング

意見	コメント
①トライアンドエラーで行うならそのことを明言し、公にその是非を問うべきだ。	本計画は調査の結果得られた資料により慎重に検討された保護管理計画に基づき、モニタリングを実施しながらフィードバック管理を行うもので、モニタリングの結果により計画の変更には柔軟に対応します。